

令和6年度タウンミーティング懇談録（大穂会場）

日時：令和6年5月18日（土） 10:00～11:30

場所：大穂保健センター

参加者：市長 ほか 参加者 14 名

<懇談録>

○参加者 1

娘が今年から中学1年生なんですけれども、学区とその新しい学校の部活動について、思うところがありまして、まず、学区を決めるところなんですけれども、私はほとんど学森の側なんですけれども、遠いところでわざわざ行かされた、近い人が行かずに遠い人が行っている。このエリアの決め方にもそもそも不満があるんですけれども、その結果、学森の方は中学受験もありまして、1.5クラスぐらいしかない。8クラスが1.5クラスに。ここで何が起きているかといいますと、部活動がすごく限られているんです。そもそも行くべき人が行かなくて、こういう状態だっというのも変だし、部活動が本当だったら野球、サッカー、バレー、バスケ、卓球っていうメジャーどころがなくて、マイナーなバトミントンだけがある。この選択の仕方もよくわからなくて、せめてそういう中で、できることといえば、学森と研究学園が同じ部活動っていうやり方もあると思うんですけれども、そういったところで子供たちが活躍できる場がすごく限られてしまっていることについて改善をお願いしたいと思っています。

●市長

ありがとうございます。まず学区については、これは本当に学区審議会を何度も重ねていて、どこで切ってもどうしても、何て言うんでしょう、完全にみんな納得が得られるような解っているのはない中で、地域のみなさんとも御相談しながら作っていったんですが、御不便をおかけしているところは実際あるなど思っていますので、そこは御了承いただければと思って。ただ、部活は、もう本当に、言葉を選びますけど、おっしゃる通りで、今、実は新しい学区の皆さんから本当にたくさん、たくさんというのは特に、この部活を一緒にやりたいと御相談をいただいているんですね。それをちゃんと、共同でやる仕組みを作る必要があるんじゃないかということで、教育長にもよく話をしています。そして、教育長もそれをなんとかしたいと思ってですね、いろんな働きかけをしてくれています。ちょっと学校、最終的にももちろん学校の判断になってくるんですが、教

育長が問いかけているのは、本当に今の形、子供が望んでいるの、ということを学校に投げかけて、まさに共同で学森と一緒にやるとか、あるいは、部活によっては、もう少し広域で、何校かで、拠点校方式というものを使って実施をしたりしているケースもあるんですね。ですので、そういうことを、学校もいろんな選択肢をちゃんと保護者の皆さんにお示しをして、これならできるんじゃないの、これなら子供が少しやっていくこともできるんじゃないのということも考えていかなくちゃいけないだろうということは、強く伝えてありますので、改善の方向にいつて欲しいと私は思っていますし、いかなければ、継続してこれ伝えていきます。その話をしたのも少し前の話で、少し前というのも、そんなに前ではないという直近で話をしたので、やっぱり子供たちがやりたい部活をできるだけ選択して、そうすると学校が、何かいや、自転車で行くのは危ないとかそういう話になっちゃうんですけど、そういうことを言わないで、ちゃんと自分たちで安全に自転車をこいでいくとか、そういうことであれば、それは何らか責任を自分で取るということにすればいいじゃないかというような話を、結構、これ実はやり取りをされていてですね、なかなかちょっと学校が少し慎重だなあと思っているんですが、教育長も教育局としても、粘り強く今学校と話をしていますので、ちょっと今回こういう風にお話しただけすることは、逆にありがたいことで、タウンミーティングで直接言われましたということで、また改めて週明けですね、すぐに共有をして、いろんな選択肢を持てるようにするというのは、きちんと伝えていきたいと思います。御不便をおかけして、申し訳ないと思います。

○参加者 1

ついでに一言だけいいですか。そうすると、学校はクラブ活動があるじゃないか、という言い方をしてしまうんですけども、実際クラブ活動って、相当意識高い系の人が、集まっていて、途中参入ができないというのが現実なんですね。私、バスケやっているんですけど、見てたらもうレベルが全然違って入っていけない。その子たちは見捨てられてっていうことがあるので、やはり部活動の在り方というのを、もうちょっとやはり真剣に考えていただきたいなと思います。

●市長

地域移行もですね、さっきもうほとんど時間なかったんで飛ばしましたけれども、つくば市って、自分としてはそういう認識は全然ないんですが、全国的にはですね、何か先進地域みたいな認識をされててですね、これでも。実は、かなり確かにエネルギーをかけてやっているんですが、でもそんな簡単に地域移行ができるわけないし、うまくコーディネーターがですね、個別に、個別の学校の

部活ごとにどこどこが一緒にできるだろうというかなり細かい調整をやってなんとかできて、色々な事例がつくばは報道がされたりするんですけど、現場は本当に手探りでやっている状況です。まさにおっしゃるように、クラブでやってくださいっていうほど単純な話ではないと私は思っているですね。私自身も、地元の少年団にいて、中学校のときは部活動をやって、今で言うと外部指導者のはしりみたいな感じで、そこに当時の少年団の筑波大のサッカー部の監督だった人が教えに来てくれたりしたんですけど、それは本当にローカルな関係の中で例外的な話ですけど、全然レベルが違うというのはそのとおりですし、卓球なんかだと、大会の上位者は基本、全部クラブ活動、地域のクラブでやってる子たちが、決勝準決勝で当たるみたいな、じゃあ部活は意味ないのかっていうと、またそれはそうじゃないと思いますし、そういう在り方も含めて、議論してるプロセスにありますので、問題意識まったく同じだと思っています。ただ聞いて終わりにするわけにはいけないので、改めてしっかりと伝えたいと思います。ちなみに何をお子さんはされているんですか？

○参加者 1

バトミントンを。

●市長

バトミントンは消去法的にやられたんですか？本当は何をやりたかったんですか。

○参加者 1

そうです。本当はバスケットをやらせたかったんです。

○参加者 2

市長さんには、何度もお手紙を投函して、いつも市長さんからお手紙をいただきましてありがとうございます。最近はお忙しいということで秘書さんからお手紙をいただいたりしました。今日、ご覧になったとおり、細かく説明していただいて、とてもつくば市は、発展途上国で、外国旅行に行ってもね、東京というよりつくば市ですか、と驚いてくれるんです。だから本当につくば市は希望のある都市で、今からの若い人たちは大したもんですね。それと、今日代表で来たんですが、老人の方みなさん足腰悪くて歩けないんですよ。色々あるんでしょうけれど、昭和生まれの一桁生まれは戦争のため苦勞して、日本の国を守ってまいりました。ですから、もう少し老人の方に耳を傾けてほしいということを市長さ

んにお願いしてきてくださいということをお願いされました。

もう一つ、ここで申し上げる問題ではないんでしょうけれど、二の宮の靴流通センターから二の宮公園の方に入る所の街路樹ね、アオギリがいっぱい生えていて、枝がいっぱい伸びちゃって、秋になると落葉樹がいっぱい落ちて、排水溝に詰まって、道路がびちゃびちゃになっちゃうんですね。あそこから、南大通りからつるみ薬局の角に入って、二の宮公園に入る、あその両方も街路樹のアオギリが伸びちゃってね、あそこ今、問題になっていて、ついでに市長さんをお願いして下さいってことで、今日参りました。

●市長

ありがとうございます。タウンミーティングは初めてですか。初めてな気がしませんね。一つ目の高齢者の声というのも、もう、もうめちゃくちゃ聞いてるつもりです。聞いてるつもりと言ってしまうのがないので、今日いくつかお持ちしてるんですけれども、例えばこの市報にですね、今日お配りしてると思うんですが、ちょうど予算がいろいろ書いてあって、この次に高齢の方向けのサービスが、さらに充実しましたと書いてあって、例えば、これも高齢の皆さんから御意見をいただいて、補聴器の購入費の補助というのを、今度新しく始めていくんですね。やはり高齢の方、聞こえにくくなってくると、なかなか外に出るのも億劫になっていたりして、どんどん閉じこもりがちになったり、それはやはり行政で改善しようということであったり、タクシー券も、今まではいろいろ制約があったんですね。子供と一緒に住んでいると駄目だとか、なんだかんだとか。でももう、80歳以上の方は、全員誰でももう申請できますよと。もうどんな所得であっても大丈夫です。ただ、ご自分でバリバリ運転している方は例外ですけれども、そうでない方は、誰でも、所得も何も関係なくであったり、実はさっきの電動アシスト自転車の補助も去年まで70歳以上だったんですけれども、筑波大の研究チームもこれはすごくいいと、出来れば早く始めたほうが良いというので、これも65歳以上まで拡大しましたし、これは全国的にも、まちでこんな金額だしているところは一つもないんですけれども、まちの移動の仕方も、皆さんの健康という意味でも、環境という意味でもすごく可能性があることだと思っていますので、ぜひお使いいただきたいなということで、おむつの購入費とか、色々あったりですね、ありすぎて、在宅高齢者福祉事業のこういうのが色々あったりですね、あとは、高齢者の皆さんが地域で活躍できるようにというので、これも新しく作っています。「ツクバネ」ということで、高齢者がいきいきと暮らせるように、地域のサークル一覧とかそういうのも含めて、全部カバーした、結構こういう冊子はレアだと思うんですけど、そういうものなどなど、話せと言われれば、いくらでももっと話しますけれども、高齢者の皆さんの声はしっかり聞いています。

聞いていますが、でもそういうお声が出るということは、やっぱり皆さんが聞かれていないんだと、きっと思っているんじゃないですか。それはやっぱり、我々の努力の仕方が足りないんだと、思っているんですね。そういうのを伝えられるように、今回の市報にも色々載せましたので、ちょうど5月号ですので、5月号の市報にも色々載っているよとか、そういうのを参加者2さんから周りの方にお声がけいただいて、めっちゃくちゃ高齢者の方の話聞いているとか、若い人ばかりじゃないんだなということをお伝えいただければ嬉しいなと思います。

2つ目の話をしてもいいですか。街路樹は確かに大きくなっていくんですね。適正に管理しないと、と思っています。私実は、すごくつくばの街路樹を大事にしていまして、まちの成熟の一つの証だと思っているので、実は私の就任前というか、就任した直後はあの辺の木を全部切る計画があったんですね。これはとんでもないということで、実際にいろんな専門家と一緒に歩いて、止めたんです。もう工事始まっていたところも止めて、本当に一部だけ切れちゃったんですけども、千本以上…もっとかな。守れたんですけども、ただ、実際落ち葉とかたくさんあると思うんです。特に台風時期の前なんかは、大体詰まる場所がわかっていますので、それは当時作られた排水が容量的に小さくて、そこに落ち葉なんかが入ってしまうともうどうにもならないんで、できるだけ、台風シーズンとかの前には、詰まる所を事前に、もうきれいに1回しちやっているという、それでも落ち葉のシーズンなんかで、わっと一気に降るとどうしても詰まってしまうことがあるので、今年もすごく注意深く見ていきますが、適切に剪定をして、守りながら、できるだけみなさんに冠水で御迷惑をおかけしないような努力はしていますが、やはり木は大事にしながらそういう良い環境を守っていききたいなと思っています。

○参加者 2

それと、つくタクの問題ですね。桜地区と大穂地区はつくタクが細かく停まるんです。谷田部地区の方から来るのが、大穂庁舎と豊里の病院しか停まらないんです。ですから、もし区域があるから簡単にはできないでしょうけど、谷田部地区のつくタクも細かく停まっていいただければと思うんです。タイヤによく買物来るので、あの辺に停まってもらえれば幸いなんです。

●市長

つくタクは、どうしてもエリアで切らないとえらい距離になっちゃいますので、できるだけ地域内で、病院とかは地域を越えても OK というような仕組みにしているんですが、御意見としては承りたいと思います。ただ、それはいったん

はこのままかと。タイヤがお好きなんですか。並木のタイヤなんかもね。

○参加者 2

荷物がいっぱいあるもんで、大穂庁舎まで3キロほかないんです。ここにつくタクが来ますからね。できたらタイヤあたりに1か所停まってもらえる場所があると助かるなと思います。

●市長

エリアまたぐと乗り継がなくちゃならなくなりますしね。もう少し近くにスーパーがあるとね。二の宮からタイヤさんに来ていただいているとは驚きでした。ありがとうございます。

○参加者 2

こちらに嫁いだもので、今二の宮にいますが懐かしくてこちらに来ています。

○参加者 3

いつも住みやすいまちづくりをしていただいて、ありがとうございます。学校の放課後開放がないものなのかなとお聞きしたいんですけども。以前は学園の森義務教育学校に行っていて、今は研究学園中学校に通っているんですけども、義務教育学校は小中一貫なので、中学校の部活があるから、開放はないということで理解していたんですけども、改善できないのかなという思いです。

●市長

放課後開放は、グラウンドとか体育館ということですか？

○参加者 3

グラウンドです。

●市長

グラウンドは、実は基本全部やっていくんですけども、もちろん中学校は部活の関係がありますけれども、ただ、開校直後は色々学校も混乱しているので、少し落ち着いてからやっていくということです。あれ、でも研究学園の小学校ですか？まだしていない？

○参加者 3

まだしていませんね。研究学園小中学校です。

●市長

色々オープンしすぎていてごっちゃになっているけど、もう1年以上経っていますよね。確認します。市の方針としては、基本開放していくということを考えていますし、御存知のように中については、図書室であったり、そういうものの全部1階のセキュリティ別に配置したので、週末なんかもみなさんに使っていただけるようにしたのに。なんで対象に入っていないんだろう。ちょうど5月に、この間あたり会議やったはずなんだけれども、スポーツ少年団とかそういう意味での利用ということですか？

○参加者3

いえ、遊び場としてなんです。

●市長

それはいいご質問ですね。またちょっと別の切り口をしていて、遊び場として入ってもら分には駄目とは言わないんですけども、もっとやりたいことがあってですね。放課後、そもそも学校で子供たちが過ごせたらいいんじゃないかと思っていて、我々の頃は、同じ世代だとは思っていませんけれども、もっとお若いと思っていますが、放課後学校で自由に遊んでいましたし、教室にもいられたし、グラウンドでも家に帰らず遊んでいたし、児童館に別に行かなくても過ごせる場所があったわけですよ。でも今は、責任問題だということで、学校から子供たちが追い出されるというちょっとおかしいことになっているです。学校を子供たちの手に取り戻したいなと思っていて、実は今、今年度色々事業を検討し始めているんですが、放課後そのまま子供たちが学校で過ごせるモデル地区を沼崎小でやろうと思っていて、そこは色んな放課後に子供は何もしなくていい、のんびりしてもいい、何か遊んでもいい、大人は見守っていて、先生たちではなくて別の人たちで見守っていて、さらにできれば地域のいろんなことを知っている大人たちやあるいはいろんなことができる大人たちがいるので、地域の大人たちに先生になってもらって、興味がある子はそっちに行くよ、みたいなことをしたいなと思っていて。他の自治体でそういったことを展開しているNPOがあるので、今年と来年をかけてモデルをやってもらって、良ければそれをいろんな学校に、できれば全校に広げて、全校まではいきなりは大変かもしれませんが、ということを考えています。そうするとお子さんは、放課後学校で過ごせる、校庭を走り回ることもし、学びたければ地域の大人から学ぶこともできる。そういう場所にしていきたいという事業、放課後アフタースクール事業とい

うのを今年度も始めていって、私も先日その代表と話をして、色々相談をしましたが、そんな取り組みをされていて、ちょっとすみません、今年来年というわけにはいかないですが、どういう形でできるか、頑張っていきたいと思っています。遊び場としての学校ですね。

○参加者 1

学校開放で、夜 9 時くらいまで体育館を借りることができて、私たち大人が中学生を教えて、大人同士でバスケやって、遊び場じゃなくて、そういう意味での学校開放をやっていただけだと思います。

●市長

その学校開放は今、各学校でやっていますので、それに研究学園に入っていなかったのは何でなのかと思っていたんですが。1 年経てば、基本開放するつもりで動いていたので。

○参加者 3

図書館とかは開放されているんですが、校庭がない。

●市長

そうですね。図書館はもちろんやっていますし、部活があるから難しいってことなのかな。グラウンドは中学校は部活があるから仕方ないのかな。研究学園小学校は体育館は開放しているようですね。中学校は体育館と武道場は開放している。スポ小の皆さんとかも会議に来ていただいていたいて、調整して、もうたぶん終わっている。開放はしている。

○参加者 4

パーキンソン病でしゃべるのが大変なのでゆっくりしゃべります。病院に行って難病指定の証明書を医者を書いてもらおうと 8,000 円くらい取られるんですね。

●市長

パーキンソンの証明を書いてもらうということですか。

○参加者 4

はい。実際医者には、金額は忘れましたが月 1 割に対してこれしか出な

いと。なのでちょっと御相談させていただきたいなと思って。

●市長

はい。それはお医者さんに証明書を出してもらって、その証明書を何かに使いたいと。

○参加者 4

難病指定の証明書。

●市長

難病指定の証明書として使いたいけど、お医者では 8,000 円かかると言っている。

○参加者 4

10,000 円超えた分しか出ないと。1 割しか。8,000 円で書いてもらっても出ないと。

●市長

それは 10,000 円超えないと、超えた分しか出さないというのは、市がそう言っているということですね。

○参加者 4

保健所ですね。

●市長

保健所のほうですか。なるほど、ちょっと私こういう御相談を今回初めて受けたので、把握していませんでした。保健所だと茨城県の管轄になるので、どういう仕組みで保健所がその補助を作っているのかですとかですね、難病指定の関係の枠組みとして何ができるのかとか、ちょっと考えてみたいと思うんですけれども、参考までに市役所には御相談はもうしていただいていますか。

○参加者 4

市役所にはしました。それで市役所の方でも、1 割ということになりました。

●市長

1 割の補助ですか。

○参加者 4

個人負担が 1 割ですね。

●市長

個人負担が 1 割ですか。

○参加者 4

市役所の方は問題ないです。ありがとうございます。

●市長

よかったです。今日は鈴木将県議が地元ですね、いらっしゃっているの、後で鈴木県議なんかにも御相談してですね、保健センターは茨城県の所管でやっていますので、どういうことができるかとか、私もちゃんと問題把握した上で県に御相談したいと思います。しっかり確認をして、またお伺いしたいと思いますので、今日お名前とかは書いていただきましたよね。

○参加者 4

書きました。

●市長

じゃあ後で担当から御連絡するようにしますので、教えていただいてありがとうございました。

○参加者 5

予算の一覧がここに書いてありますが、この中の誇れるまちというところに、ノーカーボンシティとかそういう事に関して予算がついていますが、一昨年だったかこの会場で、市が所有する公共の建物の屋根とか駐車場にソーラーパネルを作ってくださいと私がお願いしたんですね。そしたら市長が、いきなりはできないので、調査をする、その予算はつけましたと、そういうお話があったんですが、それはその後どうなったんでしょうか。

それと、同じカーボンの問題でデータセンターですね、データセンターもこれができる時に、私がやはり実はこれは大電力を使うので、造っちゃだめですよと言ったんですが、市長がそれは煙もくもくの公害の施設を造ることはないでしょうと、おっしゃっていたんですが、今度造るデータセンターは、1 ギガワット

です。1ギガワットの電力を使うんです。これは原発1基分ですよ。こんな大電力をつくば市で作れるわけなので他から買ってくるわけですね。他っていうのは東京電力とか、そういうところで。これは火力発電です。だから、つくば市ではそのデータセンターを運用すると、他の所で炭酸ガスをものすごく出すということになります。これは誇れるまちではないです。だから、実際データセンターは、例えばさくらインターネットって会社は政府の認めるデータセンターで運営してますが、これは石狩、北海道にあってグリーン電力しか使わないんです。それから、NECもデータセンターが大事だっているんで、川崎市と神戸にあるんですが、これも川崎や神戸は自分で電力をつくれないので、グリーン電力を買える仕組みがあるんですね。そういうものを使って運営するというのをやろうとしているんですね。だから、つくばにできるデータセンターは、グリーン電力を使うようにして欲しいと市の方で要望していただきたいんですけど。

●市長

はい、1つ目の方は調査はですね、ほぼ終わりました。どういうところだったから載せられるというような結果が出ましたので、これから順次、公共施設に載せていくという手はずを整えています。特に、今回ゼロカーボン、脱炭素先行地域に指定されたのが中心市街地ですので、中心市街地にかけては、かなりいろいろ調査をして、まず公共施設なんですけれども、民間の施設もできれば協力をしてもらいたいと考えていまして、それを今回市だけで申請したのではなくて、中心市街地の事業者の皆さんと一緒に取り組んでいますので、そういう皆さんともですね、連携しながら、できるだけやっていきたいと。それはなぜかと言うと、この脱炭素先行地域は、再エネ100でエリアをまわしていくことを目指していて、それを実現をして、そのモデルを市内全域にしていくということが、我々がそこに選んでいただいた大きな目標ですので、それはやっていかなくちやいけないと思っています。当然、市内全域になると、先ほどのお話と関連してくるんですが、やはりグリーンの調達をしてもらわなくてはいけないと思っています。それは企業にとってはプラスのコストですけども、もはや企業も出資を受けたりする際にも、グリーンな電力を使っていないと、経営自体もですね、やっぱり逆に危なくなってきたという流れがあると思います。ESG投資の流れがありますので、例えば先ほどの中心市街地の中でも常陽銀行さんなんかはもう、我々が持ちかける時には既にグリーン電力を調達してますということをおっしゃって、だから喜んで一緒にやりますよと言ってくれたんですけども、やっぱり企業の感度ってそういう意味では良いので、それを今することは経営戦略上、社会貢献とかそんなこと別に思っている、思っていなくても、もうそれをやらないと企業としてなかなか厳しくなってきたということがあると思っています。

ですので、今回、グッドマンというオーストラリアの会社ではありますが、彼らもいろいろな形で環境への配慮は意識はしてくれていますが、もちろんデータセンター全部調達するというのは、多分ハードルは、かなりあると思うんですけども、そういうことをまさに今、参加者5さんがお話ししたようにやっているところもありますので、そういう働きかけはですね、私からも継続して粘り強くいろいろな話をしていて、そういうプロセスでどんどん転換していってもらうことが大事だと思っていますし、まさに今回中心市街地でやる時も常陽銀行さんみたいな会社ばかりじゃなくてですね、実は、そんなの金かかるから嫌だと言われたんですね、ちょっと社名は控えますけども。でも、粘り強く話して、分かりましたとなったんです。だから、そういうプロセスを行政が、そこには私も直接介入したんですけど、市全体としてグリーンな調達に転換していこうという流れを作っていくための汗をですね、これからも一生懸命かいていきたいと思いますし、逆にこうやって言っていただけるとですね、そういうことをどんどん言いやすくなりますので。はい、ちょっと今、替えさせますとは言えなくて申し訳ないのですが、替えてもらう努力は本当に全力でやりたいと思っています。ありがとうございます。

○参加者5

この紙面になかったので、ちょっと心配だったのですが、そういったお答えということで安心しました。それとですね、ソーラーパネルも進化があって透明な発電もできるようになってるんですね。そういうのは日本人が発明した商品です。積水化学とかそういったところがやってまして、フランスではお墓の上にソーラーを置いたりそういうことやってる地域もあるんですね。ぜひ、企業、それからつくばには研究所もありますから、他と協力する格好で進めてもらいたいです。

●市長

はい、ありがとうございます。私も透明なのを写真では見たことありますが、こういうのがどんどんきてるんだなというのはすごく関心を持って見てます。ちょっと関連して、その研究機関のお話でいうと、作る方も大事なんですが、消費を抑える方も同時に大事だと思っています、省エネの話なんですけど、やはり省エネって、相当な部分断熱処理によって改善をすると。だから、地球の未来のためには、いかに既存の建物も含めて、断熱処理をして省エネ化していくかというのが大きなテーマなんです。実は、まさにそのつくばの研究機関の物質・材料研究機構発の会社で Thermalytica という会社なんですけど、ここで超断熱材みたいなものを作ってくれているんですね。今、つくば市はその会社を全力応援して

いまして、一緒にルクセンブルクに連れて行ったり、日本のそういう企業支援とか、海外の企業支援プログラムも一緒にやってもらったりしているんですが。それがすごいのは、塗れるんですね。その超断熱材を。既存の建物に塗って、効果を発揮していくことができるので、うまくはまればですね、とんでもないことが世界中で変化を起こせると思っています。今、市で全面的に協力をしていて、建物に塗ってどうなるかとか、そういう検証とかを今ちょうど進めているところですので、これ海外の元大臣とかも、いろんな大臣が注目してくれたりしていますので、そういうつくば発のものを市のサポートで、全国、世界に広げていって、世界に本当にまさに誇れるまちにしていって、つくば発の断熱材が地球を守っているというようなことに、本気でこれができるくらい可能性があると思っていますので、そういうことの努力を併せてしていきたいと思っています。ありがとうございます。

●市長

先にごめんなさい訂正が1件あったので、研究学園小中のグラウンドは、小中共用なので部活の関係で開放していません。そういう理由でということです。じゃあ後でまた。すみません、失礼しました。

○参加者6

市長のディスプレイには、ともにつくるという言葉を見ました。僕はすごく嬉しいなと思っていました。残念ながら、私の3年前に市長にお話ししたことが、ごみ焼却場の…

●市長

覚えています。いいですかもうお答えをしてしまつて。

○参加者6

はい、いいよ。

●市長

クリーンセンターですね、そこで、いろいろ行列ができたりしているので、その外周路を作ってほしいという御提案をいただいて、実は予算を取ったんです。調査をかけて設計をしました。本当は、今年度工事をする予定だったんですが、3,000㎡の面積を超えると、今度、土壤汚染対策法というのがあってですね、土

壤の調査をしないといけないという規制があったので、その土壌調査を今やっているんですね。土壌調査が終われば、今度、道路の工事に入っていけるので、土壌調査結構時間もかかるので、その予算取ってありますので、それを終えて、土壌の問題がなければ来年度工事ができると、そういう状況で、確実に進めてはいるんですけども、そこでちょっと余計な時間が今かかってしまってるというのが、途中経過の御報告です。

○参加者 6

一言で言うと、遅いね。

●市長

遅いですよね。そうですね、もうちょっと早くできるといいですね。

○参加者 6

僕としては、いきいき走っているように見えるようにお願いいたします。

●市長

はい、そうなんですよね。どうしてもあらゆるものがそうなんですけど、計画を立てて、設計の予算、設計で1年ぐらいかかって、工事が1年ぐらいで、どんなに早くても2年かかるんですが、今回そこに調査というので追加で1年かかってしまっているという状況で申し訳なく思います。

○参加者 6

じゃあいつ頃 100 パーセントできるんですか。

●市長

土壌の問題が無ければ、これ来年度予算で当然取る話になりますし、来年予算が3月の議会で成立をしたら、いわゆる入札というのをかけてですね、入札で業者が決まって契約をして工事開始なので。そうですね、それぐらいの時間、来年の夏か秋かという感じですかね。ただ入札は公平にやらないと、つくば市もね、かつていろんなことがありましたから、そこでね、もう早くやんなくちゃ駄目だって言って、こういう業者をお願いしちゃえみたいなことは、基本、許されていないですから法律上で。ですので、私ももどかしいことは結構あって、なんでもっと早くやれないのかなってあるんですけど、そうやって、例えばどっかにお願いしても、そうするとね、別に実際関係がなくても、なんか市長が癒着をしてそこに頼んだみたいな形になっちゃうので、プロセスはやっぱりちょっと踏まな

くちやいけないというのが現実としてはあります。私ももどかしいとは思いますが、民間だったらすぐちゃっとやっちゃいますから、友達の会社とかに頼んじやえばいいわけですから。ただ、そういう訳には行政はいかないということで。

○参加者 6

まあ、早めに。あともう1つ、すみません。今日OHPの中にはね、小学校の廃校のことがあったと思います。文芸。

●市長

文芸は田水山小ですね。

○参加者 6

これこの間ちょっと参加しましたが、図面はちゃんと引いてあるけど、4mも道路がないのにここで文化拠点を作って果たしてやっていけますかな。あともう1つね、この拠点として、うちの家族のやや上にあるんだよ。僕の家族がその下にある。

●市長

学校の目の前が御家族のお家ということですね。

○参加者 6

それで拠点の話をいうと、上に筑波山が見える非常に良いところだよとか。ところが、それを作ると家族の生活が100%全部変わる。動物園だよな。

●市長

ご家族の生活がどうなっちゃうのですか。うるさくなるということですかね。

○参加者 6

そう、今後うるさくなる絶対。

●市長

はい。地域での説明会などももちろんいろいろやらせていただいて、区長さん方に御相談したりしてはいて、確かに今と同じではと思いますが、元々小学校だった場所ですので、やっぱりここには賑わいがありましたし、子どもたちの声も響いていましたし、逆にやっぱり、そういうものが2中7小が合併をして、なくなってしまったりして、地元の皆さんから、やっぱりにぎわいをちゃんと生み出

すような、人が来るような場所にして欲しいというようなリクエストもありましたし、できるだけ、もちろん御迷惑おかけしないようにとは思いますが、何でも、何て言うんでしょうね、学校をまた別の形で地域にとってもプラスになるようなものに転換していくプロセスですので、そこは御理解いただければなと思っています。ただ、もちろんね、それで何か余りにも日常生活が成り立たないようなことが起きてしまったら良くないですから、こちらでも注意しながら見ていきますけども。できればね、いろんな世代がその地域に来るということは、逆に言えば大きな価値だと思っていますので。いやむしろ俺のところこういうの作って欲しかったよという廃校近くのご自宅の方もいらっしゃったりしますので。別の学校でね。だから、そこはすみません、ぜひ御理解をいただければと思います。

○参加者 6

他人に迷惑をかけない工夫しなければならないと思うんですよ。

●市長

できるだけ配慮はしていきます。

○参加者 6

まあ市長の顔で…市長がやってください。

○参加者 7

つくバスのダイヤ改正について申し上げたいんですが、いろいろとクレームはあるかと思いますが、自分の体験を一つ。小田に住んだのは、元々は竹園にいたんですが、環境が良いということで参りました。その時につくバス小田シャトルがあることは非常に大きな頼りだったんですけど、どんどんつくば駅に出るのが時間がかかるようになったり、停留所がどんどん増えていくんですよ。それは仕方ない、そういう方針だというのは前に説明をうかがったので分かったんですが、今回の4月からのダイヤ改正で平日も休日も減ってるんですけども、特に休日の減り方が酷くて、ちょっと4月になってから東京に出たんですけど、前は9時55分が最終だったんですが、今は7時5分。1.3時間短くなったんです。早くなったと言うのかな。それは全然気が付かなくて、せめて8時くらいまでは大丈夫だろうと思っていたら、全然乗れなくてちょっと困りましたということがございまして。これはいろいろ説明もされていたと思いますし、さっき赤字だというお話がちらっとあったと思いますので、理解できないことはないん

ですが、何て言うんですかね、地域の足なんだし、それから東京との繋がりもTXですけど、ある意味では唯一のものですよ。大穂に出ればなんとかなるんですけど、その間が昼間に2、3本しかないとかね、ということで、困っているというほどではないんですが、ちょっとこういうことがあることだけお伝えしたいなと思いました。

●市長

はい。これは申し訳ございませんと言うしかないんですけども、つくバスは、さっきのコストの話は自動運転の話でして、これは自動運転バスが1億円の赤字というだけで、つくバスはですね、赤字云々とは実は全然関係ないところで、2024 問題というのがありまして、今年の4月から残業時間の規制が法律でめっちゃくちや厳しくなったので、あとドライバーの休憩時間とかも含めて、バスに限らずなんですけど。全国でですね、今までのドライバーの数だと、とても回せなくなってしまうということがあります。我々も、関鉄と何度も協議をして、もちろん予算をもっと増やしたりすることもできるんですけど、もう予算の問題じゃなくてドライバーが物理的に足りないということで、まさに週末はつくバス33%減便、1/3 減らさなくちゃいけなくなったと。これは本当にやりたくなかったですし、まさにバス停の圏域をですね、500mのカバー率を300mカバー率という、できるだけ近くにバス停を置けるような改編とかも進めてきたんですが、今回は今までの充実と全く逆の減便ということになってしまいました。これは本当に皆さんに申し訳なく思っています。全国的にみんな首長たちが悩んでいて、どうしようということになっているんですが、悩んでるだけじゃしょうがないので、実はつくば市で今度、これも恐らくやはり全国でやっていないんですけど、新しい取組として、つまりドライバーがいらないんですね。ドライバーがいらないなら、もうドライバーを市で育てようという事業をですね、今、国の予算を申請していて多分通ると思うんですけども、ドライバーバンクというものをつくろうと思っています。何をしようとしてるかと言うと、バスもそうですけど、タクシーもですね、特に駅前なんかは、行列ができちゃっていて、タクシーのプールに1台もないようなことが夜とかなっちゃうんですね。それで結構待たなくちゃいけなくなったりすると。タクシードライバーも足りない、バスドライバーも足りない、そうなのは移動できないじゃないかということで、国がようやくちょっとだけ規制緩和をして、いわゆる2種免許というお客さんを乗せるための免許、お金貰ってお客さんを乗せるための免許じゃなくても、載せていいという規制緩和をちょっとだけしたので、その活用をして、地域のタクシー事業者とかバス事業者と連携して、地域全体で募集をしよう。まず、1種免許で活躍していく人を、研修をちゃんとしながら、安全に運転できるようにしてもらおうと。

さらにそこでしっかりと動けるようになっていったら、2種免許を取得するのも、市で全力で応援をしよう。そうやって、潜在的にドライバーになれそうですね、少し時間があって余裕があるような方たちを、雇用を育てていけば、市で雇用をしたり、関鉄さんの中でも雇用をできるというような事業を今進めていく準備をしています。何か、長々と話していますが、そういうことをとにかくして、なんとかこのドライバー不足を解消して、本当につくバスが御迷惑をおかけしていることは重々承知なので、また、そういうところからですね、これならもうちょっと便利に、また元には戻せなくても、もう少し充実されるかなという流れに転換していくべく、できるだけことはやっていきたいと思っていますので、ちょっとそんな答えでは、今のお困りごとはすぐには解決しなくて、申し訳ないのですが、できるだけ努力をしていきたいと思っています。

○参加者 8

今の話に付随することなのですが、タクシー補助券を私今いただいているんですけど、使いづらくて、タクシー券が3枚までしか使えないんですね。迎えをすると1枚500円ですから、あと2枚ですと1,000円、そうすると、ほんの少しにしかならないんですね。私も去年、自転車の5万円をいただいて、自転車をやったんですけど、それでも足らなくて、歩いて行くんですけど、3枚目ではちょっと少ないかなと。せめて、迎えすれば、あと2枚とか、1枚とか。料金は、限度額があると思うんですけど、それを使ってしまえば、後は使えなくなるけども、なんとかそれができないものかなと。

●市長

ありがとうございます。

○参加者 8

先ほど、つくバスは色々聞くと使いづらいと。今言ったタクシー券が3枚から5枚くらいになれば回数は減るけども、今言った小田の地域も例えば大曽根あたりから小田まで行くとそんなにかかれないと思うんだよね。つくバスだったら、つくば駅から結構かかるけども。そんな感じで1,500円だとちょっと辛いなど。

●市長

はい、ありがとうございます。迎車で1枚。実はこれも今までより増やしてきたんですね。あれ、僕が市長になった時は1枚だったのかな。これじゃだめでし

よって話をして、1回2枚にして、いやもうちょっとしたらって言って今3枚になんて、御意見は承りました。そうなんですよ、人によって別にたくさん1回で使えたほうが良いっているケースがあるのは確かにそう。ただ、できればいろんな機会に外出する機会の回数を増やして欲しいというので、こういう仕組みには今なっている。ただ、確かに迎車で1枚使ってしまうと、あと2枚というのはちょっと足りないかなとも思います。

○参加者 8

ちなみに駅から1,500円だと、洞峰公園くらいなんですよ。それから、自分の自宅まではその倍以上かかります。だから、せめて1,000円くらい出していただければ、あとは自分の足でも、ちょっと500円とか1,000円足せば何とかかなと思えたので。

●市長

ありがとうございます、貴重な御意見をいただきまして。御意見としていただきましたので、定期的に今の制度で本当に市民が助かっているのかどうか、市民に寄り添っているかっていうのは議論をしていますので、具体的な数値の分析とかをしてみて、どういうニーズがあるかとかを見たいと思います。ありがとうございます。

○参加者 8

それとね、高齢者の運転の問題でいろいろと都合がありますよね。私も返納しようかと思ったんですけど、やはりタクシーがもっと使えれば、返納しやすいかなと思ったので、その辺の考えを一度聞かせていただければなと。

●市長

はい、ありがとうございます。免許返納はですね、今までは免許返納してよと言えるような状況ではなかったと思うんですよ。だから、私実は免許返納をしてくださいというのは、市長になってから一度もしてないんですね。免許返納しても自由に移動できるという環境がないので。だから、今回の自転車に関しては、かなり大きな補助ですので、免許返納していただけたら上乗せはできますよというようなスタンスです。

○参加者 8

ちなみに今日自転車で来ました。

●市長

電動アシスト付き自転車ですか。

○参加者 8

はい。

●市長

いいですね。市の補助での電動アシスト付き自転車ですかね。そういう話はすごく嬉しいです、ありがとうございます。良いですね、電動アシスト付き自転車ね。

さっきのつくタクについてはですね、これもまさに使いにくいんですね。1時間に1枠しか予約がつかれないので、これも来年度は、全部AI オンデマンドということで、予約を今だといろいろ制約があるんですけど、自由にいつでも予約できるようにしてというので、荃崎で実験したんですね。実験して非常に良かったので、この仕組みを全市に広げていきたいと。そうすると、今は1時間に1枠なんですけど、理論上は1台につき1時間に6枠まで。理論上はですよ。それは過密している所だとあれですけど。実際、荃崎でやった時も大体1時間に2枠くらいは埋めることができましたので、もっと使いやすいものにしていきたいと思います。

○参加者 9

よろしくお願いします。私、今日軽い気持ちで来てみたんですけど、みなさんみたいに切実な気持ちがないんですけど、市長ってやっていて楽しいですか。

●市長

市長はですね、めちゃくちゃやりがいがあります。それも楽しいという表現もできると思います。まあまあしんどいこともたくさんあります。特に、体力的にというかですね、本当に土日が全く無い仕事ですので、平日もあれなんですけど、実は市長になってから、私2回入院をしまして、扁桃炎と肺炎で、どちらも要するに過労だと言われたんですけど。いい加減にしろよと、医者から怒られたんですけど。3度目の入院をいかにしないかというのが自分の中で大きなテーマなんですけど、ただやっぱり、ものすごくやりがいは感じています。こうやって皆さんからいただき御意見を、市で話をして、議員の皆さんとも相談をして、新しい制度をつくることによって、やっぱりちょっとでも困ったことが改善をするということは、自分にとってはすごく嬉しいことだし、それを楽しいと表現す

れば、すごく楽しい仕事だと思います。それはなぜかという、市議会議員を8年やってたんですけど、どれだけ提案をしても、やっぱり変わらなかったんですね。ただ、今は、それもこうやって皆さんから聞いたお声を、かなりある意味直線的に変えることができる。さっき部活の話のように、なかなか教育ってちょっとあまり直接的な影響をすることはいけないと法律で決まっているので相談しながらやっているんですが、そういう意味では楽しくやらせていただいています。が、お答えになっているでしょうか。

○参加者 9

なっています、ありがとうございます。

●市長

楽しそうですか。どうですか。

○参加者 9

楽しそうに見えます。

●市長

じゃあよかったです。

○参加者 9

お身体お大事に。

●市長

ありがとうございます。それだけはいつも気を付けたいと思っています。

○参加者 1

つくば、高校が無い問題について、どのように考えていらっしゃるかお聞きしたいです。待たない状況で、ちょっと妙案があるんですけど、廃校を高校にリニューアルするとかしていつてみてはいかがでしょうか。

●市長

ありがとうございます。むちゃくちゃ今一生懸命頑張っているところなんですけども。県立高校が足りないのは明らかで、私も知事に会うたびに、今度また来月か再来月くらいに予算の要望を上げに行くんですけど、常に県立高校を早

く作ってくれという話はしています。ただ、県は作る気ないです。全くないです。なぜかという、全県で見れば子供が減っているからって。いや、そんなことは当たり前でしょという話をしている、つくば市だって減ってるところがありますよ。でも、増えてるところもあって、増えている分は作ると、それが行政じゃないんですかって話をしてやってるんですが、まあ県は作る気ないです。新しく作らないのは、それは長期的な課題でいいけど、今ある学校に増設をまずしたらいいじゃないですかって話なんです。つくば市なんて、もうしょっちゅう学校の増設をしているんですね。もし今プレハブって言っても、すごくいい形のものがありますので、もう毎年、去年も6教室竹園西（※竹園東）に増やして、もう2億数千万円なんです。栗原にも4教室（※3教室）かな、もうばんばん増やしてるんです。いいじゃないですか、その後転用していけば。例えば、竹園高校に6教室1学年2クラス増やすだけでも定員が80人増える訳なんです。土浦一、二とかもどんどん減ってるんですけど、そこを増やしたらいいじゃないですか。それが、今残念ながら県は、牛久栄進高校を1クラスだけ増やしますと言っているわけですね。なんですか、それと。いや、今ちょうど教室、空き教室があったからと。何を言ってるんですか、そんな次元の話じゃないですよということを書いてですね、先週県の教育長が来たんで、かなり激しくそれについては、もう本当に本気で考えてくださいと、僕らはできるだけの努力をしています。例えば、筑波高校に行くためにも、やっぱり遠いからね、バスが無いとかって、県がそれで定員を増やさないとか言っていたので、今、県立高校に通う子供たちの補助金を市で用意してるというような状況で、そういう努力を我々もしてるんです。あなたたち何をやったんですかっていう話だと正直思っています、強く強く求めていっています。学校跡地なんかもですね、いろいろなお声をいただいていますので、市の学校跡地はとてもじゃないですけど狭いので、もうほとんど2中7小が廃校になったんですけど、1つはN高というのが誘致ができたので、S高と言うんですけど、S高が使っている中学校が大きい方、もう1個東中学校は自転車とジオパークの拠点に転換できたので、もう小さい小学校しか残っていないと。ですので、ちょっと高校にはなり得ないんですけども、まあまあ適地がですね、まだ市内にもあつたりしますので、そういうのを県として買ってくれという、市としても本当にやるんだけど、県は市で市立高校をつくるんだったら全面的に協力するとか言ってるんですけど、具体的なことを聞いてみたら、一切何もなくて、教員の人件費も全部市が出してくれみたいな話なので、何が協力なのかと。建物もつくってくれるのかと思ったら、建物も市でつくれみたいな、じゃあ何かといったら、教員の配置だけちょっと協力はするとか意味分かんないこと言っているんで、本気で考えてほしいということを言い続けています。これはもう常々できることをやりながら、県に対しても常に求め続けていこうと。

市立高校をつくったらいいいと言われる方もいらっしゃるんですけど、これだけ学校を増やしているんですよ、小学校、中学校を。3年間で6校（※5校）オープンさせるみたいな、全国的にも無いわけですね。そこにかかなりの予算と職員も含めて投じて、いろんな取組をしながらやっていて、最低限県の仕事の県立高校くらい、県でやって欲しいなというのが本音としてはあります。

○参加者1

よろしくお願いします。